

内視鏡検査室をリフォームしました。

京都医療センター 消化器内科

リカバリールームを併設し、診療体制がさらに整いました。

このたび、病院2階の内視鏡センターの拡張工事が終わりましたので、報告させていただきます。昨今の拡大内視鏡と画像強調内視鏡の普及にともない、ひとつひとつの検査が精密になり時間がかかるため、鎮静が必要な検査が増加し、リカバリールームの併設が必須となりました。また検査室の老朽化が目立ってきたこともあり、隣接するナースの仮眠室のスペースに検査室を新設、旧検査室をリカバリールームにするという形で、拡張・改装の許可をいただきました。その後、関係各所の方々の多大なる協力のもと工事を進めることができ、5月6日に無事、落成となりました。かなり広くきれいになりましたので、来院の際はぜひお立ち寄りください。COVID-19の出現以来、内視鏡検査はかなり減ってしまい、まだまだCOVID-19前のレベルに戻るには時間がかかりそうです。当科は構成メンバーも若返り、マンパワーも十分です。ピロリ菌感染は減っていますが、高齢化社会を背景に抗血栓薬・NSAIDs内服者は増え、薬剤性の胃粘膜障害には頻繁に遭遇します。また男女とも大腸癌の増加は著しく、胃癌・大腸癌は医療者の努力で早期発見が可能となっています。内視鏡検査のハードルをぐっと下げていただき、患者さんに気軽に勧めていただきたいと思います。下記の「胃カメラ直行便」も、よりオーダーしやすいシステムに変えましたので、積極的にご利用くだされば幸いです。



検査室



リカバリー室

「胃カメラ直行便」をご利用ください。

当院の外来を通さず内視鏡センターへ直行いただき、検査を実施することが可能です

予約受付時間

[月～金] 8:30～20:00
(日・祝祭日・年末年始は除く)
[土] 9:00～13:00

診察等依頼票のダウンロードページはこちら



お申込みの流れ

- 1 診察等依頼票をFAXしてください。[受付FAX]075-643-4361**
●FAX到着後、地域連携室より関係書類をFAXでお送りします。
- 2 患者さんへご説明をお願いします。**
●患者さんは当日、紹介状・予約票・同意書(署名あり)をお持ちいただき、2階内視鏡センターへ直接お越しください。
※予約票・同意書はFAX到着後、地域連携室よりFAXでお送りします。
※紹介状は事前にFAXしてください。
※緊急症例は適応外ですので、救急診療受付ダイヤルをご利用ください。

FM845「カラダ元気」出演

毎月最終火曜日 14:05～14:30放送の京都リビングエフエム FM845「カラダ元気」コーナーに、当院の医師や職員が出演しています。当院のホームページから過去の放送分も視聴可能です。

過去の放送はこちらから



KMCG

kyoto
medical
center

MAGAZINE

京都医療センター 広報誌 [ケーエムシーマガジン]

2022.6
Volume 02

鼎談

がん治療の新たな展望

京都医療センター副院長 がんセンター長

三尾 直士



産科婦人科診療科長

安彦 郁



高度放射線療法部長

荒木 則雄



鼎談

京都医療センター副院長
がんセンター長

産科婦人科 診療科長

放射線治療科 診療科長

三尾 直士 × 安彦 郁 × 荒木 則雄

がん治療の新たな展望

大きな可能性に挑む
がん治療の新たな展望

がん診療連携拠点病院に指定されている京都医療センターは「がんセンター」を有し、各診療科がシームレスに連携して治療・緩和ケアを展開。今回の座談会では、大きな可能性をもつロボット支援手術、高度放射線治療、「第4のがん治療」といわれる、がん免疫療法をクローズアップします。

三尾 副院長 (以下:敬称略):がんは「治る病気」になりつつありますが、日本においては2人に1人がかかるといわれ、死因で最も多い疾患です。今後がん治療の重要性がさらに高まっていくのは間違いありません。そうしたなか、京都医療センターのがんセンターは、専門性の高い治療と緩和ケアを行っています。

荒木 放射線治療科 診療科長 (以下:敬称略):私たちの強みとしては、新しい治療を取り入れると共に、各診療科が組織横断的に連携し、医師や看護師、コメディカルスタッフが協力しながら治療やケアを展開していることが挙げられます。

三尾:そうですね。近年がん治療は飛躍的に進歩していますが、今回はそのなかでロボット支

援手術、高度放射線治療、がん免疫療法について話したいと思います。



安彦 産科婦人科 診療科長 (以下:敬称略):京都医療センターではいち早く「ダ・ヴィンチ」を導入し、積極的にロボット支援手術を行っています。ロボット支援手術のメリットは、細かな動きもブレなく正確に行えることで、リスクが

回避でき患者さんの負担を抑えられることです。それは入院日数が短くなり退院後、スムーズに日常生活を送れるようになるケースが増えていることから分かります。また2022年7月には最新型「ダ・ヴィンチXi」が導入される予定で、さらに高精度な治療が行えると期待しています。

三尾:ロボット支援手術の件数はどんどん増えていて、毎日どこかの診療科が使用している状況です。多くの手術を行うことで、医師をはじめスタッフの習熟度が上がる効果もありますね。

安彦:それはとても大きいです。医師でいえば、どの診療科の先生も操作技術が高く、ロボット支援手術の長所を引き出しているように感じ

ます。また当院にはロボット執刀資格をもつ医師が各診療科に複数人いて、レベルアップに努めている点も特長です。以前は曜日ごとに「ダ・ヴィンチ」を使用する診療科が決まっていたが、カレンダーを全診療科で共有するようになり、効率よく使用できるようになりました。効率性のアップに加え、診療科間のつながりも活性化したと実感しています。



高度放射線治療により
治療の幅が広がる

荒木:高精度放射線治療を積極的に行っていることも、がんセンターの特色です。高精度放射線治療は病巣に対してミリ単位で照射でき、周辺の正常な臓器への線量を抑えられるため、患者さんへの負担を軽減することが可能です。さらに副作用を減らしながら従来の1.5倍~2倍の線量を照射できるので、これまで放射線治療が効かなかった患者さんにも効果が期待できます。

三尾:治療が高度化することで、診療放射線技師との連携が重要になると感じています。

荒木:おっしゃる通り、放射線治療専門技師や医学物理士の方々と協力しながら最適な治療計画を立てる必要があります。当院は京都大学医学部附属病院とアライアンスを組み、医学物理士さんを派遣していただいています。少し話は変わりますが、装置が進歩し、精度の高い検査や治療ができるようになったことで、医師の仕事量が大幅に増えるという課題が出てきました。負担が大きくなると、医療の質に影響を及ぼすリスクがあります。そこで、思い切ってタスクシフトをしてみたら、仕事の効率だけでなくスタッフのモチベーションも以前より上がったんです。

安彦:ハードとソフトの両面のバランスをとることで、物事がうまく回り出すということですね。

荒木:その他にも、高度放射線治療を最大限に活用できるよう、各診療科との合同カンファレンスに参加しています。円滑なコミュニケーションを持つことで、各診療科が、どんな考えで、どのような治療をしているかを理解することにつながっています。



いち早くがん免疫利用法に取り組み
副作用管理のノウハウを培う

三尾:近年、薬物療法のひとつ、がん免疫療法が注目されています。従来の抗がん剤や分子標的薬は、生存期間を延ばすことはできるものの、完治には至らなかった。それに対して、がん免疫療法薬は完治に近いところまで至る可能性があります。また、副作用が少ないことも特長で、2014年にはじめて実施されて以来、少しずつ適応できるがんが増え、今では20以上になります。

安彦:がん免疫療法に関しても当院は早くから取り組んでいますね。

三尾:ええ、多くの経験を積んでいることは、私たちの強みです。特に膠原病をはじめとする自己免疫疾患や、副作用に対する対応には自信をもっています。

安彦:多くの患者さんを診ていると稀な副作用が出るケースがあり、さまざまな視点から、どのように対応すべきかを検討することでノウハウを蓄積できます。

三尾:そういう面が、膠原病内科や内分泌内

科のある京都医療センターの強みだと言えるでしょう。また、がん免疫療法は併用療法の研究も進んでいて、多くのケースで実践されるようになるのは間違いありません。そうした状況にしっかり対応できるようにしておくことが不可欠です。

荒木:これまでのがん治療は、手術・化学療法・放射線治療のどれかを選択するというように、別系列で捉えられていましたが、これからは手術の安全性を高めるために放射線治療を行うなど、同系列で捉える必要があると感じています。

安彦:ロボット支援手術も実施件数だけでなく適応する術式も増えているので、それに対応できる体制をつくりたいと思っています。

三尾:がんセンター内はもちろん、京都医療センター全体でもスタッフ同士が顔の見える関係を築いているので、こうした取り組みはスムーズに進められます。がんセンターは今後も治療・ケアの質向上に努め、地域の方々の健康に貢献することを目指していきます。

今回鼎談したのはこの三人

京都医療センター副院長
がんセンター長
診療部長 (医事管理担当)
呼吸器内科 診療科長

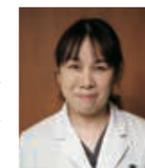
三尾 直士



1984年京都大学卒業。
2007年1月-2009年3月京都大学医学部 集学的がん診療講座准教授、2009年より京都医療センター呼吸器内科科長、2021年より副院長。
専門: 肺癌・間質性肺炎

産科婦人科 診療科長
日本婦人科ロボット手術学会認定
ロボット支援手術プロクター

安彦 郁



2000年大阪大学医学部卒業。
京都大学婦人科学産科学教室などを経て、2019年より京都医療センター勤務、2020年より産科婦人科科長を務める。

高度放射線療法部長
放射線治療科 診療科長

荒木 則雄



1994年高知大学卒業。
京都大学放射線医学講座入局、2007年より京都医療センター勤務、2020年より高度放射線療法部長。

KMC REPORT

医療現場の最前線

京都医療センター 診療科のご紹介

毎号、当院の診療科を取り上げ、診療科長より「治療・研究の取り組みや実績について」お伝えします。

循環器内科

「京都一の循環器施設」を目指す循環器内科は、患者満足度の向上に向けて治療の質向上はもちろんのこと、患者さんやご家族の希望や願いによく耳を傾け、安心・快適な療養環境づくりに取り組んでいる。また2022年6月より「TAVI」を開始。新しい治療の導入にも注力している。

信頼される医療を提供するため 専門性の追求と地域連携に取り組む

ハイブリッド手術室の開設に伴い いま注目される「TAVI」を開始

昨年ハイブリッド手術室開設に伴い、循環器内科では今年6月から大動脈弁狭窄症に対するカテーテル治療「TAVI」を開始しました。これにより、高齢などのために手術ができなかった患者さんに、効果的な治療を行えるようになりました。さらに、「TAVI」に関する経験豊富な心臓外科医が新たに着任し、チーム全体のレベルアップを図るなど、万全の体制を整えています。

近年「TAVI」は国内においても普及しつつありますが、現在のところ京都市内で実施しているのは当院を含めて4施設のみで、他の3施設はすべて市内の北部という状況です。そうしたなか当院が「TAVI」を開始したことで、伏見区～京都府南部にお住まいの患者さんは治療を受けていただきやすくなるでしょう。

大動脈弁狭窄症は加齢に伴う疾患であり、患者数はここ数年で大幅に増えています。地域の開業医の方々におかれましては、患者さんに心雑音などの兆候がある場合、ご紹介いただければと思います。循環器内科では医療関係者専用の「循環器ホットライン」を設置しており、当科の医師が直接対応しますので、お気軽に利用ください。

地域の救急要請に対して フレキシブルに答える体制

当科が力を入れている取り組みのひとつに、救急の受け入れが挙げられます。ここ2年で、新型コロナウイルス感染症の影響で多くの病院が救急対応の縮小を余儀なくされるなか、救命救急科と密に連携することでしっかりと病床を確保し、緊急患者の治療・ケアを行える環境を維持してきました。今後もひとつのチームとして一丸となり、断らない救急を徹底していきたいと考えています。

また、循環器ドクターカーを導入していることも特長です。平日昼間であれば医師が同乗して医療施設に向かいますので、ご活用ください。

その他では、地域医療連携の一環として2010年に慢性期の循環器疾患を対象とした「病診連携パス」を開始し、多くの先生方と信頼関係を築くことができました。そして、このネットワークがあったからこそ、伏見医師会、医仁会武田病院と共同で実施している「伏見心臓病登録研究」で成果を挙げることができたといえるでしょう。京都府南部における治療の実態調査や予後調査を行い、多くの論文を発表するなど、今では日本を代表する心臓病の研究に発展しました。これからも臨床と研究をリンクさせ、患者さんの健康、地域医療に貢献していきたいと考えています。



京都医療センター
(医療関係者専用)循環器ホットライン TEL: 075-606-2071
24時間365日、当科の医師が直接ご対応。ドクターカーの派遣も可能です。



診療部長
(内科系担当・病棟管理担当兼任)
循環器内科 診療科長
臨床研究センター 主任研究員

赤尾 昌治 (あかお まさはる)

京都一の循環器施設を目指して、診療・研究・教育のどれも全力投球して参ります！



心血管カテーテル治療科 科長
心血管治療センター長
医療安全管理副部長
臨床工学科長 産業医

阿部 充 (あべ みつる)

しっかりした準備と万全の体制でTAVIを行います。当院を信頼くださり、大動脈弁狭窄症の患者さんを是非ご紹介ください！

救命救急科・ 救命集中治療科

三次救急医療施設で、京都府にある6つの救命救急センターのひとつである京都医療センターは、24時間365日対応の医療体制を整え、質の高い救急医療を展開。各診療科と連携・協力することで、地域連携にも積極的に取り組んでいる。こうした取り組みにより、2021年の救急車の搬送件数は約4,400件という実績を挙げた。

広い視野をもって活動し、 京都の救急医療に貢献



こうした取り組みは結果に表れてきており、2021年の救急車の受け入れ件数は約4,400件と、当科が開設されてから2番目に多い件数となりました。そして2022年にも月に300件～400件、コンスタントに受け入れている状態です。

今後は伏見区～京都府南部だけに留まらず、遠隔地の受け入れも視野に入れています。当院は京都市南ICに近く、京都縦貫自動車道を利用すれば、亀岡市や南丹市からの救急搬送も可能ですので、こうしたエリアの医療施設との協力関係を築いていければと思います。

また、これからの救急医療を担う若手医師を育成するため、プログラムに基づいた教育に力を入れていきたいと考えています。若手の成長によって当科のレベルアップだけでなく、京都の医療に貢献できればこんなにうれしいことはありません。

充実した体制で 質の高い救命救急を目指す

三次救急医療施設および救命救急センターである京都医療センターは、伏見区～京都府南部の救急を支える役割を担っており、24時間365日の医療体制を維持しています。そして救急搬送の要請に対してできる限り断らず、救急外来においても軽症・重症にかかわらず対応することをテーマに掲げて活動しています。

そうしたなか重症の患者さんに関しては、まず救命救急センターで集中治療を行い、状態が落ち着いてから各診療科が引き継ぐ一貫性のある治療を実施しています。このような体制の柱となっているのが、各診療科の専門性の高いスタッフ陣です。また、救命救急科は、2022年4月に増員して現在19名の専従医が在籍しており、当院の規模からすれば、かなり充実しているといえるでしょう。

さらに、すべての診療科が救急用のモバイルを所持しており、患者さんの疾患に応じて迅速に治療に加わる連携がとれていることも強みです。その他にも一般病棟や地域連携室とも連携し、救命救急の病床を確保する工夫をしています。



伏見区に留まらず 遠隔地の受け入れも視野に

地域連携に対して積極的に携わっていることも当科の特長です。例えば、どの診療科で診るのが最適なのかははっきりしない症状の患者さんについては、ひとまず当科で対応した後、該当する診療科が引き継ぐことで、より多くの患者さんを受け入れることが可能です。



救急部長
菅橋 望 (さきはし のぞむ)

当科では重症患者さんの救急要請だけでなく、どんな些細なご相談もしっかりと対応しますので、気兼ねなくご連絡をお願いします。

INFORMATION 01 臨床研究センターからのお知らせ

臨床研究支援事務局を開設しました!

臨床研究をサポート、院外の先生方との共同開発も支援します。

日々の日常診療の中には疑問がたくさんあり、その疑問を明らかにするのが臨床研究の本質です。京都医療センターでは、日常診療から生まれた臨床的・クエスチョンに答えをみつけるために多くの臨床研究が行われています。これらの研究をサポートするため、臨床研究センターでは昨年度、「臨床研究支援事務局」を開設しました。

開設にあたって、京都大学大学院社会健康医学講座の川村 孝名誉教授に顧問に就任していただきました。川村先生は著名な疫学の専門家、医学書院から「臨床研究の教科書」というわかりやすい教科書も出版されています。また、4月からは、同じく京都大学社会



健康医学講座で教鞭を執ってきた後藤 禎人医師が着任し、支援事務局のコアメンバーとして研究支援にあたっています。その他、ファシリテータとして臨床研究センター長の八十田、全般的な研究サポートは事務局員・データマネージャーの梅垣が携わります。

臨床研究支援事務局では、今後京都医療センター内部の臨床研究に留まらず、院外の先生方との共同研究も支援したいと考えております。活動内容をもっとよく知りたい方、ご興味をお持ちの先生方は、是非、下記の問合せ窓口までお気軽にご連絡ください。



前列左から梅垣、川村先生、後列左から後藤、八十田

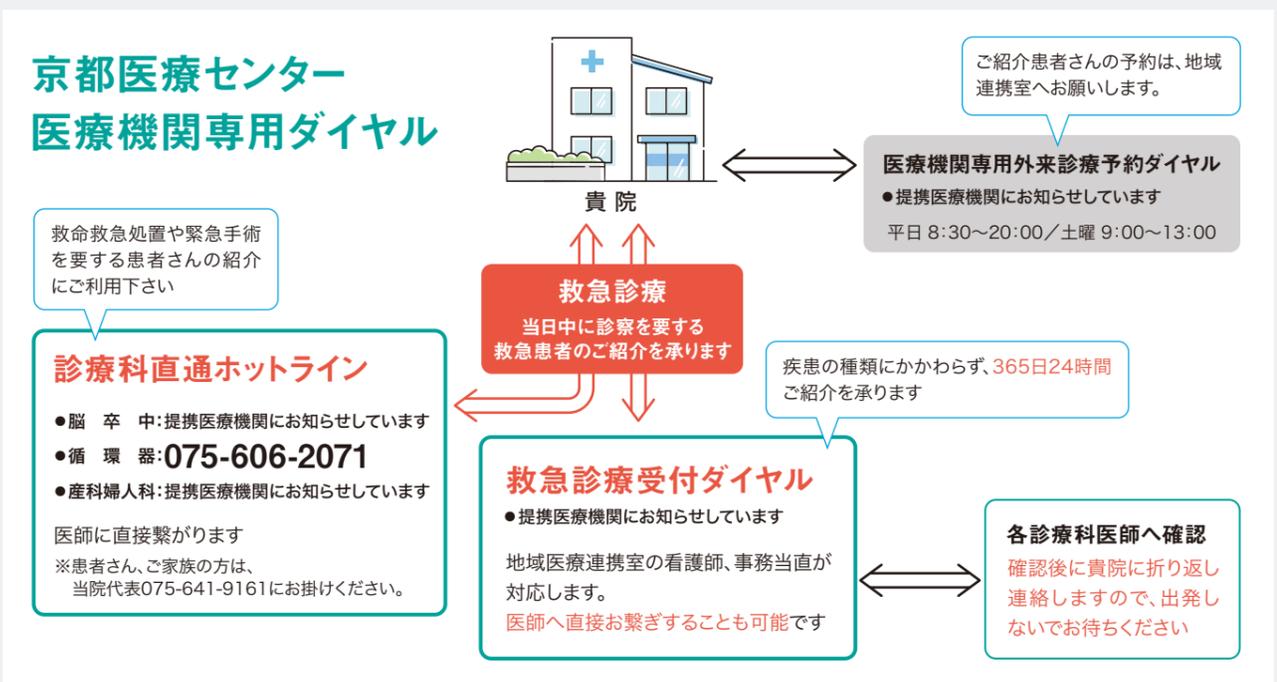
問合せ窓口 E-mail: kmc.sup.clin.res@gmail.com

INFORMATION 02 地域医療連携室 救急診療受付

地域の高度急性期病院として、昼夜、救急医療に尽力してまいります。

救急診療受付ダイヤルは、提携医療機関にお知らせしています

平日の8:30~17:15は看護師が対応し、速やかに診療科の医師に電話を取り次ぎますので、是非ご利用下さい。



特別室個室病棟リニューアルのご紹介



落ち着いた空間でゆっくりと療養できます



付き添いの方にもお寛ぎいただけます



待合ロビーも広々



特別メニューもご用意しています



コンシェルジュがご案内



シャワーとトイレ、セパレート、一体型タイプがございます

京都の温もりと歴史を感じる空間で、快適な療養環境をご提供いたします。

令和4年4月1日に全室リニューアルした特別室個室病棟。内装はもちろんソファやテーブル・テレビなど、お部屋でご利用いただく設備も入れ替え、『気』と『色』にこだわったインテリアで「京都らしさ」を演出しています。さらに綺麗で快適な個室空間に生まれ変わりました。特別室個室病棟は、安らぎと機能性を兼ね備えた個室で、質の高い療養環境とサービスを全ての診療科の患者さんにご利用いただけます。主治医の許可のもと、ご家族の付き添い・宿泊も可能です。詳しくは、各診療科外来や入院支援センターにお尋ねください。

お食事について(特別メニューの提供)

夕食は通常メニューの他に、特別メニューをご用意できます。

※治療の関係上、主治医の許可が必要となります。
※特別メニューは、可能な範囲でご希望をお聞かせいたします。
※特別メニューをご利用の際は、通常の食事費用の他に、1食につき550円(税込)がかかります。土曜日、日曜日、祝日、お盆期間、年末年始はご利用いただけません。

- 特別室個室病棟(全室有料個室 30床)**
- 全診療科で入室可能
 - 急性期から終末期、あらゆる病期への看護を実施
 - 各疾患の看護を行うため、幅広い専門知識を持ったスタッフが対応
 - 個室病棟専用出入口のため、万全のセキュリティ確保に注力
 - 専任コンシェルジュが、入院生活を全面サポート
 - ご家族向けのソファベッド完備
 - 応接対応設備完備
 - インターネット接続環境完備(無線LAN[Wi-Fi])

【設備】電動ベッド/多機能シャワー(ボディシャワー機能他)/トイレ(車椅子対応) 大型テレビ/ミニキッチン/冷蔵庫/電子レンジ/電子ケトル(ポット)/空気洗浄機 応接セット(ソファベッド・テーブル)

【アメニティ】アメニティセット/ティッシュペーパー

【その他設備(病棟内)】ランドリー(無料)/ティーサーバー(無料)

特別室使用料: **全室22,000円(税込) / 1日** ※出産後にご利用いただく場合は非課税(20,000円/1日)です。